

名古屋市立大学医学部附属
リハビリテーション病院
(現施設:名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院)
公的医療機関等2025プラン

令和7年1月 策定

【現施設:名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院の基本情報】

医療機関名:名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院

開設主体:名古屋市

所在地:〒467-8622 愛知県名古屋市瑞穂区彌富町字密柑山1番地の2

許可病床数:80床(2病棟)

(病床の種別)

全て一般病床

(病床機能別)

全て回復期機能

稼働病床数:39床(工事のため41床は稼働停止中)

診療科目:

リハビリテーション科、神経内科、整形外科、内科、循環器内科、放射線科、
脳神経外科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科(全10診療科)

その他事業:

指定居宅サービス事業

(訪問リハビリテーション・介護予防訪問リハビリテーション)

職員数:(令和6年10月1日現在)※常勤換算にて記載

- ・ 医師: 10.3人
- ・ 歯科医師: 0.3人
- ・ 看護職員: 53.2人
- ・ 医療技術職: 55.1人
- ・ 事務職員: 11.7人
- ・ その他職員: 4.4人

併設事業:

居宅介護支援

補装具制作施設

障害者支援施設(自立訓練[機能訓練・生活訓練]、就労移行支援、施設入所支援)

瑞穂区障害者基幹相談支援センター・地域活動支援センター(つきみがおか)

障害者就労支援センター(めいりは)

介護実習・普及センター(なごや福祉用具プラザ)

名古屋市障害者スポーツセンター

福祉スポーツセンター

【1. 現状と課題】

※ 構想区域の現状と課題については、平成28年10月発出愛知県地域医療構想より抜粋

① 構想区域（名古屋・尾張中部構想区域）の現状

・ 地域の人口及び高齢化推移

名古屋医療圏は、県内人口の3割以上が集中しており、全国的にも3番目に人口が多い2次医療圏となっている。

総人口は県全体と同様の推移で減少し、65歳以上は増加していき、県全体より増加率は高くなっている。

<人口の推移> ※（ ）は平成25年を1とした場合の各年の指数

区分	総人口		65歳以上人口			
					75歳以上人口	
	平成25年	令和7年	平成25年	令和7年	平成25年	令和7年
県	7,434,996 (1.00)	7,348,135 (0.99)	1,647,063 (1.00)	1,943,329 (1.18)	741,801 (1.00)	1,165,990 (1.57)
名古屋・尾張中部	2,435,443 (1.00)	2,413,691 (0.99)	549,243 (1.00)	657,475 (1.20)	257,170 (1.00)	401,600 (1.60)

・ 地域の医療需要の推移と特徴（患者数：医療機関所在地ベース 単位⇒人/日）

<急性心筋梗塞>

医療機能		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	在宅医療等	(再掲)在宅医療等のうち訪問診療分	計
名古屋	H25年	18	33	13	0	*	0	64
	R7年	23	42	18	0	*	0	83
尾張中部	H25年	*	*	*	0	0	0	*
	R7年	*	*	*	0	0	0	*

<脳卒中>

医療機能		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	在宅医療等	(再掲)在宅医療等のうち訪問診療分	計
名古屋	H25年	85	291	194	0	54	0	624
	R7年	108	399	271	0	76	0	854
尾張中部	H25年	*	*	*	0	*	0	*
	R7年	*	*	*	0	*	0	*

<大腿骨骨折>

医療機能		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	在宅医療等	(再掲)在宅医療等のうち訪問診療分	計
名古屋	H25年	23	139	108	0	37	0	307
	R7年	35	217	167	0	56	0	475
尾張中部	H25年	*	*	*	0	*	0	*
	R7年	*	*	*	0	*	0	*

・ 4 機能ごとの医療提供体制の特徴：入院患者の受療動向

名古屋医療圏の入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期は9割程度と非常に高い水準にあり、また、他の2次医療圏や県外からの患者の流入も多くみられる。

尾張中部医療圏の入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期が非常に低くなっており、名古屋医療圏へ多くの患者が流出している。また、慢性期については、名古屋医療圏から多くの患者が流入している。

<平成25年度 他医療圏への流出入院患者の受療動向>（上段単位⇒人/日）

患者住所地		医療機関所在地			合計
		名古屋	尾張中部	その他	
名古屋	高度急性期	1,321 87.7%	*	186 12.3%	1,507 100%
	急性期	3,735 88.1%	16 0.4%	488 11.5%	4,239 100%
	回復期	3,819 88.3%	26 0.6%	480 11.1%	4,325 100%
	慢性期	2,191 79.9%	119 4.3%	433 9.1%	2,743 100%
尾張中部	高度急性期	50 72.5%	*	19 27.5%	69 100%
	急性期	123 46.1%	82 30.7%	62 23.2%	267 100%
	回復期	112 38.9%	111 38.5%	65 22.6%	288 100%
	慢性期	33 20.4%	104 64.2%	25 15.4%	162 100%

<平成25年度 他医療圏からの流入入院患者の受療動向>（上段単位⇒人/日）

医療機関所在地		患者住所地			合計
		名古屋	尾張中部	その他	
名古屋	高度急性期	1,321 72.3%	50 2.7%	455 24.9%	1,826 100%
	急性期	3,735 77.0%	123 2.5%	990 20.4%	4,848 100%
	回復期	3,819 79.1%	112 2.3%	899 18.6%	4,830 100%
	慢性期	2,191 84.0%	33 1.3%	383 14.7%	2,607 100%
尾張中部	高度急性期	*	*	*	*
	急性期	16 16.3%	82 83.7%	0 0%	98 100%
	回復期	26 14.9%	111 63.4%	38 21.7%	175 100%
	慢性期	119 41.2%	104 36.0%	66 22.8%	289 100%

② 構想区域の課題

- 大学病院が2病院あり、救命救急センターも6か所（平成30年2月1日、名古屋市立東部医療センターが指定され7か所となる）整備されている等、高度な医療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要がある。
- 人口が多く、面積も広いため、構想区域内の医療提供体制の地域バランスに留意する必要がある。
- 回復期機能の病床を確保する必要がある。

＜平成27年度病床機能報告結果と令和7年必要病床数との比較＞（単位⇒床）

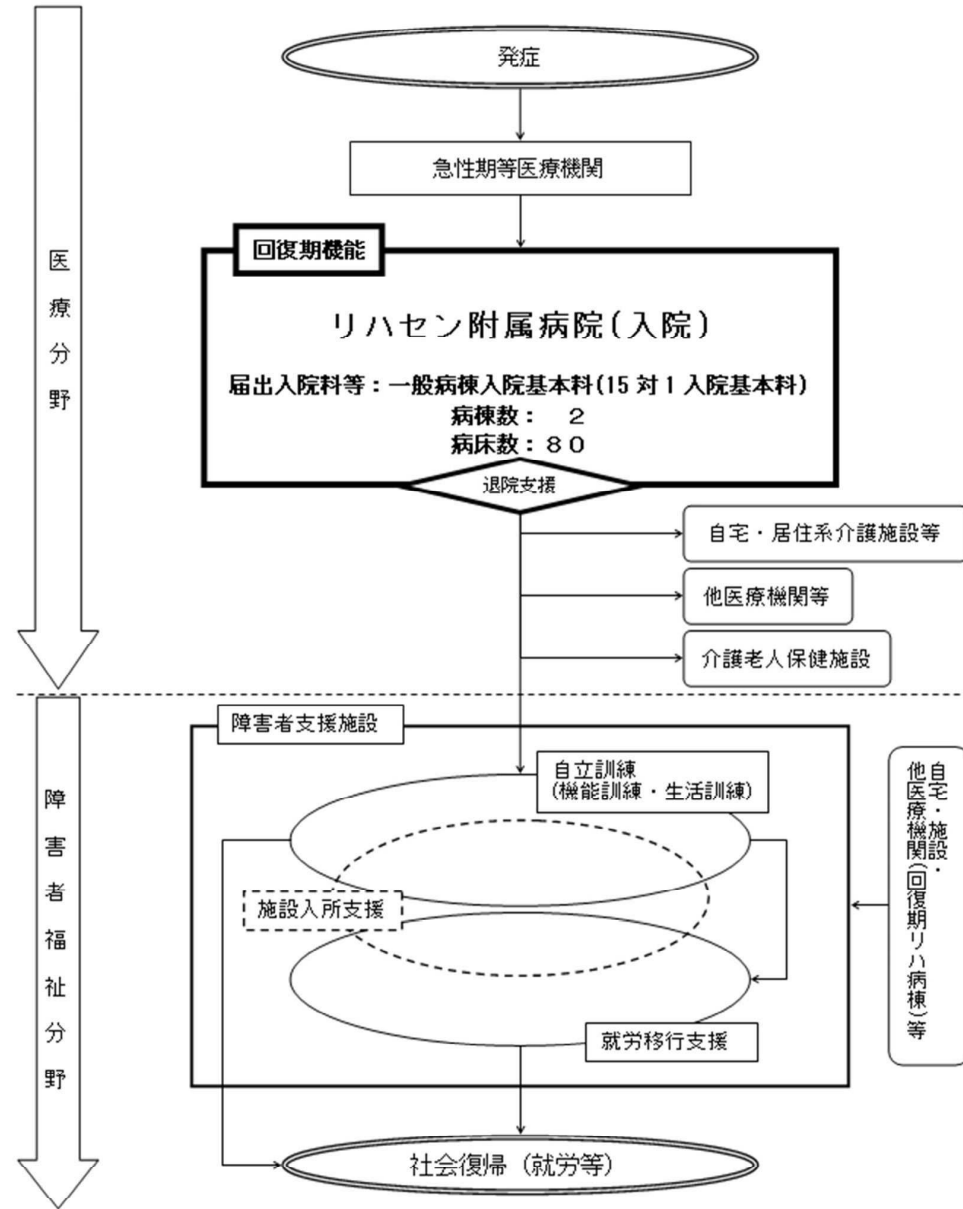
		令和7年 必要病床数推計	平成27年 病床数	差引
名古屋・ 尾張中部	高度急性期	2,885	6,605	△3,720
	急性期	8,067	9,238	△1,171
	回復期	7,509	2,059	5,450
	慢性期	3,578	4,620	△1,042
	計	22,039	22,522	△483

※ 平成27年病床数は、平成27年10月1日における一般及び療養病床数を、平成27年度病床機能報告結果の各機能区分の割合を乗じて算出した参考値。

③ 現施設の現状

- 名古屋市総合リハビリテーションセンター基本理念
総合リハビリテーションセンターは、心の通いあいを大切にしたりハビリテーションをめざして、基本理念を定めます。
 - 総合リハビリテーションセンターは、利用者の意向の尊重、利用者の尊厳の保持を基本として、社会的自立を支援するように努めます。
 - 附属病院は、真心を込めた、親切かつ丁寧な対応をすることを旨に、インフォームドコンセントの理念を推進し、患者様の信頼が得られる医療を提供するように努めます。また、先進医療技術を駆使して総合的なリハビリテーション医療を提供するように努めます。
 - 福祉施設は、障害のある方の持てる力と可能性を追求することを旨に、共に生活し活動していくノーマライゼーションの理念を推進し、利用者本位の最適な訓練サービスを提供するように努めます。
 - スポーツ施設は、健康で快適な暮らしを応援する事を旨に、健康づくりや地域のコミュニケーションづくりの場を提供するように努めます。
- 名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院の設置主旨と対象者
名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院（以下、「リハセン附属病院」という。）は、名古屋市の障害者福祉施策において「医療から社会復帰に至るまでの一貫したリハビリテーションを総合的に提供する」という重要な役割を持つ行政目的病院である。その役割を果たす為、名古屋市総合リハビリテーションセンター（以下、「リハビリセンター」という。）は、リハセン附属病院の管理運営と合わせて障害者支援施設の管理運営も行っている。
リハセン附属病院の具体的な目的としては、脳血管障害や脳外傷等により内科的治療を必要とする患者、脊髄損傷、骨関節疾患により外科的治療を必要とする患者及び心臓疾患等により内科的治療を必要とする患者に対し、在宅復帰に止まらず、より社会復帰を意識した総合的なリハビリテーションを行うことである。
 ＜対象者＞
 - ア 脳血管疾患等リハビリテーション料算定対象患者（脳血管疾患、中枢神経疾患、神経筋疾患、高次脳機能障害 等）
 - イ 廃用症候群リハビリテーション料算定対象患者（急性疾患等による日常生活能力の低下 等）
 - ウ 運動器リハビリテーション料算定対象患者（急性発症の運動器疾患、運動器疾患による日常生活能力の低下 等）
 - エ 心大血管疾患リハビリテーション料算定対象患者（急性発症の心大血管疾患、心大血管疾患による日常生活能力の低下 等）

- 名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院の入院患者の流れ
入院前相談時から、障害者支援施設等他の部門との円滑な連携を実施している。



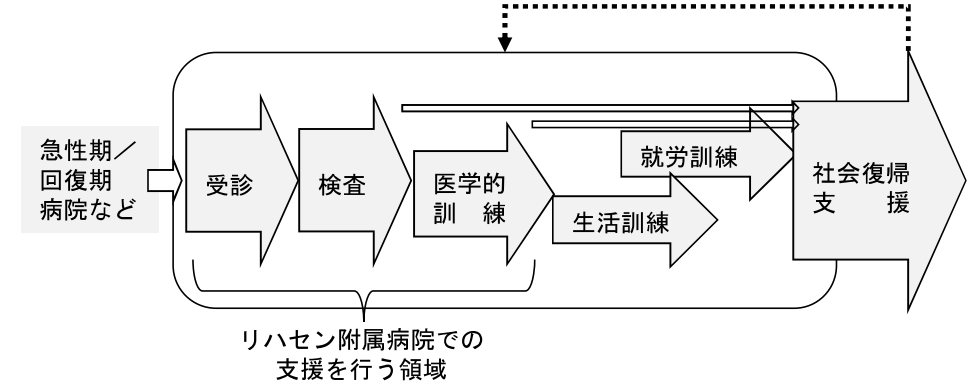
- 診療実績(令和5年度実績)
 入院料：一般病棟入院基本料(15対1入院基本料)
 平均在院日数：45.53日
 病床利用率：68.88%
 入院延患者数：20,168人
 外来延患者数：29,973人
 在宅復帰率：84.98% (回復期リハビリテーション病棟入院料の計算による)
 入院リハビリ提供：365日 (土日祝・年末年始含)

- 5疾病に対する取り組み
 5疾病のうち、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患については、脳血管疾患等リハビリテーション料ならびに心大血管疾患リハビリテーション料の施設基準の届出をし、治療効果の高い集中的なリハビリテーションを行う回復期機能を有する医療機関として、愛知県地域保健医療計画に記載されている。
 また、脳卒中の後遺症である高次脳機能障害に対しては、その確定診断から、評価・検査、訓練と、多職種による集中的、包括的なリハビリテーション医療を行っている。

- 他医療機関との連携
 脳卒中、大腿骨頸部骨折については、地域連携パスを活用し、他医療機関との連携を図っている。また、頸髄損傷、脊髄損傷についても、他医療機関の医師との連携を密にし、入院受入を行っている。

- 高次脳機能障害者に対する支援
 リハビリセンターは、愛知県から「高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業」の支援拠点機関として指定を受けている。
 リハセン附属病院は、その入り口として社会復帰までの支援の一翼を担っている。また、復帰後、生活上の崩れがあった場合に支援の見直しができるような体制づくりを障害者総合支援法に基づく生活訓練等により行っている。

<高次脳機能障害支援システム>



④現施設の課題

- 脳血管疾患や頭部外傷による高次脳機能障害を有する方の中には、回復期リハビリテーション病棟入院料の算定対象(回復期リハビリテーションを要する状態)とならない方も多数いる。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 令和7年4月1日に、名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院は、市立大学医学部附属病院化され、名古屋市立大学医学部附属リハビリテーション病院となるが、引き続き、在宅復帰および社会復帰につなげる医療を提供する。
- ・ 脳血管疾患（高次脳機能障害を有する方を含む）、整形疾患、心疾患等に対して、機能の回復及び生活の場への復帰ができるよう、多職種による集中的、包括的な回復期リハビリテーション医療を引き続き提供していく。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 名古屋・尾張中部構想区域の回復期病床は大幅に不足しており、回復期病床の確保が必要とされていることに加えて、在宅復帰および社会復帰につなげる医療を継続して提供するためにも、今後も回復期機能病床とする。

③ その他見直すべき点

- ・ 令和7年4月以降、2病棟80床のうち1病棟については回復期リハビリテーション病棟入院料の算定をめざし、もう1病棟については地域一般入院基本料の算定を行うことを予定する。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① その他見直すべき点4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	80床		80床
慢性期			
(合計)	80床		80床

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度			
2018～ 2020年度			第7期 介護保険 事業計画
2021～ 2023年度			第8期 介護保険 事業計画
2024～ 2025年度	2024年度 大学病院化の準備 2025年度 名古屋市立大学医学部 附属リハビリテーショ ン病院として開院		第9期 介護保険 事業計画

第7次医療計画

第8次医療計画

- ② 診療科の見直しについて
検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持	リハビリテーション科、神経内科、整形外科、内科、循環器内科、放射線科、脳神経外科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科	↓	リハビリテーション科、神経内科、整形外科、内科、循環器内科、放射線科、脳神経外科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
新設		↓	消化器内科、呼吸器内科、精神科
廃止		↓	
変更・統合		↓	

<（診療科の見直しがある場合）具体的な方針及び計画>

- ・ 現行の10診療科は維持し、入院患者対応を中心として消化器内科・呼吸器内科・精神科を新設する。
- ・ 新設する診療科の医師の確保については、原則、市立大学病院群からの応援による。

- ③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：90%以上
- ・ 在宅復帰率：70%以上

【4. その他】

(自由記載)

- ・ 医療福祉センターを設置し、地域の医療機関や福祉施設等との連携による在宅復帰および社会復帰支援を行うほか、医療福祉に関するプロフェッショナルな人材の育成などに取り組む。
- ・ 公立大学病院として、地域との交流イベントやサロン活動、市民公開講座の実施等を通じた社会貢献事業に取り組む。

名古屋市立大学医学部附属 リハビリテーション病院 ビジョン

理念・基本方針・診療科・病床

理念	高度なリハビリテーション医療を提供し、地域に信頼される病院をめざします
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 安心安全で丁寧な医療を行います ● 社会に広く役立つ研究を行います ● 思いやりのある医療人を育てます ● 自分らしく生きることが支えられます
診療科	常勤：リハビリテーション科、整形外科、脳神経内科、循環器内科、放射線科 非常勤：脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、消化器内科、呼吸器内科、精神科
病床	回復期 2病棟 80床（1病棟について、回復期リハビリテーション病棟入院料の届出を検討）

名市大附属病院群における当院の位置づけ



診療

- 脳血管・整形・心疾患に対するリハビリテーション医療を継続
- オンライン診療・遠隔リハビリテーションの検討

医療人の育成

- 医・薬・看・リハ・人文（社会福祉士）学生実習の受け入れ
- 医師初期臨床研修における地域医療研修への貢献

研究

- リハビリ現場のシーズを活かした臨床研究
- 名市大各学部・研究科、他大学との共同研究の推進

社会貢献

- リハビリ・社会復帰モデルの形成と地域への還元
- 地域との交流イベントやサロン活動、市民公開講座の実施

医療福祉センター

- 福祉部門との連携による在宅復帰および社会復帰の支援
- 医療福祉に関するプロフェッショナルな人材の育成